

【新学長挨拶】

## 学長に就任して



京都医療科学大学 学長 <sup>えんどう けいご</sup> 遠藤 啓吾

本年4月から高橋 隆前学長の後任として、新しく学長に就任しましたので、よろしくお願いたします。

本校の特徴は最も古い伝統と、多くの卒業生、先輩が全国で活躍していることです。学友会の活動が本校にとって、また在校生にとって大きな励みとなっています。

先日京都市で開催された学友会総会 2011 に出席しました。若い頃に一緒に仕事した本校の卒業生との再会に昔を思い出しましたし、講演された樺島、井上ふたりの先輩のお話を拝聴し、深い感銘を受けました。

良い先輩をもった幸せを感じたひとときです。

私自身、放射線診療に携わって40年あまりになります。25才から45才までの20年間は主に京都大学で、45才から65才までの20年間は群馬大学において放射線診療、特に画像診断、核医学の仕事をしました。この間、多くの本校卒業生と一緒に仕事し、その優れた技術、人間性、指導力に感服していましたが、在校生もいずれは先輩のような立派な診療放射線技師となることでしょう。在校生にとって5年後、10年後、20年後に自分がどのような仕事をしているか、どのような地位にあるか、先輩を目標として勉学に励みます。学友会の方々には在校生の良い見本、目標になってもらえればと思っています。

福島原子力発電所事故がまだ収束していませんし、半減期の長いセシウム-137 が大量に残存しています。国民の放射線、放射能に対する不安は、日常生活にも影響を及ぼしています。今ほど放射線、放射能に対する正しい知識が求められている時代はありません。診療放射線技師はベクレル、シーベルトを日常使う唯一の国家資格です。先輩の多くが福島県に出かけ、放射線量測定のお手伝いをしています。私自身は研究の初期に甲状腺などでヨウ素-131 を使っていた関係から、これまでの経験が少しでもお役に立てればと、週に1回から2回内閣官房で仕事しています。皆様におかれましても国民の放射線に対する不安、風評被害などに対し、科学的データに基づいて住民を指導していただければと思っています。

私にとって本学に勤めるのは初めてではありません。昭和57年から3年間非常勤講師として教壇に立ちました。30年振りの復帰となりますが、先日の学友会総会でも「先生に教えてもらいました」とのうれしい言葉と掛けてもらいました。自分の教えた学生が立派に社会人として仕事をしているのは教育者にとって最大の財産です。これからも病院で、学会で、研究会で、学友会で、私を見かけたら遠慮なく声をかけてください。

学友会の皆様のご健勝を祈念しています。また本学に対してどうぞこれからもご指導とご鞭撻をお願いします。

(敬称略)

以上

\* 通巻 200 号 2011 年 7 月 10 日発行(H23 - No.2)より